

平成30年度「GKP広報大賞」エントリーシート

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| エントリーする団体名の名称<br>前橋市水道局  |  | 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】<br>参事兼下水道整備課長 井口 彰  |  |
| 代表者氏名<br><br>公営企業管理者 簗輪 裕之   |  | 下水道整備課計画係 金田 芳明<br>TEL:027-234-5511 FAX:027-237-1227<br>Mail:sui-geken@city.maebashi.gunma.jp |  |
| 部門名<br>行政部門  |  | 事例名<br>不用マンホール鉄蓋売却に始まった新たな価値の発見   |  |
| 事例の概要<br>GKPによるマンホールカードの発行第三弾に参戦した以降、カードを求めて全国各地から前橋市へ訪れる人が出てきました。そのような現象を受け、マンホール蓋への関心の高さを利用して、不要となった鉄蓋を原形のまま一般の方々へ売払うことを企画（10枚限定）いたしました。これまでは、専門業者へ再生資源（鉄くず）として売却処分しておりましたが、一般の方への売却については、全国の自治体初の試みとして、多くのマスコミに取上げられ全国の注目を浴びる結果となりました。延べ20社に及ぶ取材報道で、前橋市民に限らず、県内外の多くの人から申し込みをいただく結果となりました。<br>今回の取組みの成果として、これまで下水道事業に関心の無かった方々へ、「下水道」を新たに知ってもらう大きな役割となりました。代表的な事例では、<br>①市内在住の手芸愛好家の女性は、これまでマンホール蓋の存在すら気にも留めていなかったが、趣味で手掛けているパッチワークの題材として取り入れ、作品を制作した。<br>②70年以上も前橋市に在住している男性は、今回の取組みを知り初めて水道局に足を運んでくれた。<br>③県立高校の教諭が、全国的に話題となった水道局の取組みに感化され、ビジネスモデル、商品化等を考える授業において、下水道のマンホール蓋を題材に取り入れ、洋菓子の制作に取組んでくれた。<br>④全国のマンホール蓋マニアの方々が集う「マンホールナイト」で「撤去蓋の行く末を語る」の座談会に呼ばれた。<br>平成30年5月3日から5日の敷島浄水場一般開放にあわせ、「マンホールTシャツを作ろう」のコーナーを設け、参加者自身が持ち寄ったTシャツへ、前橋市のマンホールの絵柄を写しとるオリジナルTシャツ作りでは、老若男女問わず参加者が賑わいました。 |  |   |  |
|       |  |   |  |
| エントリー事例の特徴<br>全国的に初の試みだった事もあり、マスコミの取材を受け、費用をかけずに宣伝広告をしてもらった事と、その宣伝効果によってマンホール蓋マニアの方々との交流ができ、多くのアイデアを頂きました。また、そのアイデアを実施する事で、多くの人に下水道の新たな価値を発見して頂く事が出来た。   |  |   |  |
| 付属資料の提出  |  | あり ・ なし (どちらかに○)  |  |